

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2026年8月14日
【中間会計期間】	第10期中（自 2026年1月1日 至 2026年6月30日）
【会社名】	株式会社Kaizen Platform
【英訳名】	Kaizen Platform, Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役執行役員CEO 須藤 憲司
【本店の所在の場所】	東京都港区白金一丁目27番6号
【電話番号】	03-5909-1151
【事務連絡者氏名】	執行役員 朝井 秀尚
【最寄りの連絡場所】	東京都港区白金一丁目27番6号
【電話番号】	03-5909-1151
【事務連絡者氏名】	執行役員 朝井 秀尚
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第9期中	第10期中	第9期
会計期間	自 2025年1月1日 至 2025年6月30日	自 2026年1月1日 至 2026年6月30日	自 2025年1月1日 至 2025年12月31日
売上高 (千円)	2,146,737	2,043,384	4,354,800
経常利益又は経常損失 () (千円)	22,132	119,661	38,664
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失 () (千円)	11,915	144,432	29,815
中間包括利益又は包括利益 (千円)	87,561	91,496	19,184
純資産額 (千円)	2,875,335	2,901,417	2,983,182
総資産額 (千円)	4,213,797	4,002,669	4,269,618
1株当たり中間純利益又は1株当たり中間純損失 () (円)	0.70	8.48	1.75
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益 (円)	0.69	-	1.72
自己資本比率 (%)	68.2	72.5	69.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	170,323	113,639	287,090
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	38,615	54,087	23,043
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	103,286	99,574	198,261
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (千円)	1,931,882	1,731,626	1,989,244

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第10期中間連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間連結会計期間より、新たに設立した100%子会社の株式会社Kaizen AIX Consultingを連結の範囲に含めております。なお、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間連結会計期間において、当半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

経営成績の状況

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復基調で推移しました。ただし、欧米における高い金利水準の継続や中国経済における不動産市場の停滞の継続に伴う影響など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっており、また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、アメリカの今後の通商政策、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある状況にあります。

日本国内のDX市場全体は中長期的な拡大を続け、2030年には9兆2,666億円の規模にまで成長すると予測されております（注1）。同様に、当社がコアターゲットとする顧客接点のDX市場も、引き続き着実な成長が見込まれており、2030年には1兆970億円にまで達すると予測されております（注2）。さらに、人材不足の課題は今後一層深刻化することが見込まれており（注3）、DXの推進が企業の事業継続や競争力確保において重要性を増す局面を迎えています。このように、事業変革をもたらすマーケティング領域におけるDXの重要性が高まる中、デジタル上の顧客体験を改善し事業成長を支援する当社グループに対するニーズも引き続き堅調に推移しており、当社グループを取り巻く事業機会は拡大しているものと考えております。

このような経営環境の下、当社グループは、顧客体験と業務プロセスの両面におけるDXを推進するため、クラウドサービスとプロフェッショナルサービスを統合した提供体制の強化に取り組んでまいりました。特に、生成AIを有効に活用して、既存のウェブサイトや業務ツールと連携することで、利用者が特別な操作を意識することなく顧客体験の高度化を実現するコンセプトとして「Magical UX」を打ち出し、顧客体験を改善することで事業成長を支援するAIインテグレーターとして、事業のさらなる進化を目指してきました。具体的には、生成AIを活用したエージェント型ソリューションとして、「Kaizen Conversion Agent」および「Kaizen Personalize Agent」といったラインナップを揃え、既存のIT基盤のボトルネックを回避しながら、顧客獲得やLTV改善などの支援を通じて、DXによるマーケティング領域の売上や生産性向上に寄与する取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間における売上高は2,043,384千円（前年同期比4.8%減）、営業損失117,454千円（前年同期は営業利益14,617千円）、経常損失119,661千円（前年同期は経常利益22,132千円）、親会社株主に帰属する中間純損失144,432千円（前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益11,915千円）となりました。

出典 （注1）㈱富士キメラ総研「2025 デジタルトランスフォーメーション市場の将来展望」

（注2）同上

（注3）内閣府「令和5年版高齢社会白書」

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

プロフェッショナルセグメント

プロフェッショナルセグメントは、コンサルティング、クリエイティブ制作、BPO、SESなどの専門サービスを通じて、企業のDX推進を総合的に支援しております。多様なDX人材をプロジェクトごとに最適にアサインし、戦略設計から実行フェーズまで一貫した伴走体制を構築し、高い専門性と柔軟性を兼ね備えた支援により、顧客課題の解決と事業成長に貢献しております。当中間期においては、コンサルティングや開発案件が伸長するも、制作/マーケティング関連の受注が後ろ倒しとなり、業績に影響を及ぼす結果となりました。

この結果、売上高は1,773,360千円（前年同期比8.2%減）、セグメント損失は160,131千円（前年同期はセグメント損失49,239千円）となりました。

クラウドセグメント

クラウドセグメントは、当社独自のクラウドサービスを通じて、Webサイトや業務ツール、コミュニケーションプラットフォーム上での顧客体験の最適化を支援しております。タグの設置のみで導入可能な仕組みにより、生成AIを活用したA/Bテスト、パーソナライズ、スマート検索、多言語対応など、UX改善を迅速かつ柔軟に実現します。レガシーシステムへの影響を最小限に抑え、事業部門主導でのDX推進を可能とする点が特徴です。当中間期においては、顧客単価が大きく増加しており、売上も堅調に伸長しております。

この結果、売上高は270,023千円（前年同期比25.0%増）、セグメント利益は42,677千円（前年同期比33.2%減）となりました。

財政状態の分析

(資産)

当中間連結会計期間末における資産合計は、4,002,669千円（前連結会計年度末比266,948千円減）となりました。これは主に、現金及び預金が208,255千円、受取手形、売掛金及び契約資産が55,915千円減少したことによります。

(負債)

当中間連結会計期間末における負債合計は、1,101,251千円（前連結会計年度末比185,184千円減）となりました。これは主に、長期借入金が99,126千円、買掛金が55,904千円減少したことによります。

(純資産)

当中間連結会計期間末における純資産合計は、2,901,417千円（前連結会計年度末比81,764千円減）となりました。これは主に、為替換算調整勘定が45,892千円増加した一方で、利益剰余金が144,432千円減少したことによります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ257,618千円減少し、1,731,626千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動の結果による支出は113,639千円（前年同期は170,323千円の収入）となりました。主なキャッシュ・フローの減少要因は税金等調整前中間純損失の計上129,767千円、仕入債務の減少額56,138千円があった一方で、売上債権の減少額56,509千円、のれん償却額の計上35,448千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動の結果による支出は54,087千円（前年同期は38,615千円の支出）となりました。主なキャッシュ・フローの減少要因は定期預金の預入による支出998,494千円、投資有価証券の取得による支出32,864千円があった一方で、定期預金の払戻による収入985,887千円があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動の結果による支出は99,574千円（前年同期は103,286千円の支出）となりました。主なキャッシュ・フローの減少要因は長期借入金の返済による支出103,286千円であります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当中間連結会計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間連結会計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【重要な契約等】

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	55,000,000
計	55,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末 現在発行数(株) (2026年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2026年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	17,103,711	17,103,711	東京証券取引所 グロース市場	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 100株であります。
計	17,103,711	17,103,711	-	-

(注)「提出日現在発行数」欄には、2026年8月1日からこの半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2026年5月22日(注)1	35,000	17,051,481	3,010	1,780,082	3,010	1,780,082
2026年5月31日(注)2	32,230	17,083,711	1,057	1,781,139	1,057	1,781,139
2026年6月30日(注)2	20,000	17,103,711	800	1,781,939	800	1,781,939

(注)1.譲渡制限付株式報酬としての新株式発行

発行価額 172円

資本組入額 86円

割当先 当社の取締役4名、執行役員6名

2.新株予約権の行使による増加

(5) 【大株主の状況】

2026年 6 月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 (自己 株式を除く。) の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
須藤 憲司	東京都港区	3,042	17.79
株式会社SBI証券	東京都港区六本木 1 丁目 6 番 1 号	2,452	14.34
株式会社ハック思考	東京都港区南青山 7 丁目 1 2 - 5 - 4 0 1 号	900	5.26
石橋 利真	千葉県柏市	668	3.91
楽天証券株式会社	東京都港区南青山 2 丁目 6 番 2 1 号	590	3.45
上田八木短資株式会社	大阪府大阪市中央区高麗橋 2 丁目 4 - 2	500	2.92
大日本印刷株式会社	東京都新宿区市谷加賀町 1 丁目 1 番 1 号	400	2.34
榮井 徹	千葉県松戸市	162	0.95
Kaizen Platform 従業員持株会	東京都港区白金 1 丁目27番 6 号	125	0.73
松井証券株式会社	東京都千代田区麹町 1 丁目 4 番地	114	0.67
計	-	8,955	52.36

(注) 1 . 株式会社ハック思考は、当社代表取締役須藤憲司の資産管理会社であります。

(注) 2 . 2026年 6 月23日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書の変更報告書において、黒田直樹氏が2026年 6 月16日現在で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2026年 6 月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。

なお、その大量保有報告書の変更報告書の内容は次のとおりであります。

大量保有者	黒田直樹
住所	大阪府大阪市都島区
保有株式等の数	株式 1,623千株
株券等保有割合	9.52%

(6) 【議決権の状況】
【発行済株式】

2026年 6 月30日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式 (自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式 (その他)	-	-	-
完全議決権株式 (自己株式等)	普通株式 6,900	-	-
完全議決権株式 (その他)	普通株式 17,084,100	170,841	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 12,711	-	-
発行済株式総数	17,103,711	-	-
総株主の議決権	-	170,841	-

【自己株式等】

2026年 6 月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数 (株)	他人名義所有株式数 (株)	所有株式数の合計 (株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社 KaizenPlatform	東京都港区白金一丁目27番 6 号	6,900	-	6,900	0.04
計	-	6,900	-	6,900	0.04

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．中間連結財務諸表の作成方法について

当社の中間連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（1976年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、連結財務諸表規則第1編及び第3編の規定により第1種中間連結財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間連結会計期間（2026年1月1日から2026年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による期中レビューを受けております。

1【中間連結財務諸表】

(1)【中間連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,966,703	2,758,448
受取手形、売掛金及び契約資産	504,113	448,197
その他	115,941	105,799
貸倒引当金	6,394	3,296
流動資産合計	3,580,365	3,309,149
固定資産		
有形固定資産	24,241	23,784
無形固定資産		
ソフトウェア	3,132	979
ソフトウェア仮勘定	-	3,671
のれん	461,223	425,775
その他	8	3
無形固定資産合計	464,364	430,429
投資その他の資産		
投資有価証券	112,361	151,018
繰延税金資産	44,956	43,110
その他	43,328	45,177
投資その他の資産合計	200,647	239,306
固定資産合計	689,253	693,520
資産合計	4,269,618	4,002,669
負債の部		
流動負債		
買掛金	350,676	294,771
1年内返済予定の長期借入金	202,412	198,252
未払法人税等	19,452	21,633
その他	199,848	171,673
流動負債合計	772,389	686,330
固定負債		
長期借入金	514,047	414,921
固定負債合計	514,047	414,921
負債合計	1,286,436	1,101,251
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,777,072	1,781,939
資本剰余金	3,532,271	3,537,139
利益剰余金	2,674,938	2,819,370
自己株式	76	79
株主資本合計	2,634,329	2,499,628
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	486	7,529
為替換算調整勘定	348,367	394,259
その他の包括利益累計額合計	348,853	401,789
純資産合計	2,983,182	2,901,417
負債純資産合計	4,269,618	4,002,669

(2) 【中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書】

【中間連結損益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年 1 月 1 日 至 2026年 6 月30日)
売上高	2,146,737	2,043,384
売上原価	1,466,720	1,472,614
売上総利益	680,016	570,770
販売費及び一般管理費	1 665,399	1 688,224
営業利益又は営業損失 ()	14,617	117,454
営業外収益		
受取利息	9,307	9,008
為替差益	-	702
投資事業組合運用益	9,383	-
その他	3,610	2,171
営業外収益合計	22,302	11,882
営業外費用		
支払利息	6,633	5,853
為替差損	4,201	-
投資事業組合運用損	-	4,360
支払手数料	3,337	3,338
その他	614	538
営業外費用合計	14,786	14,090
経常利益又は経常損失 ()	22,132	119,661
特別利益		
固定資産売却益	240	522
特別利益合計	240	522
特別損失		
情報セキュリティ対策費	-	2 10,629
特別損失合計	-	10,629
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失 ()	22,373	129,767
法人税、住民税及び事業税	21,915	15,927
法人税等調整額	11,457	1,262
法人税等合計	10,457	14,664
中間純利益又は中間純損失 ()	11,915	144,432
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失 ()	11,915	144,432

【中間連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年 1 月 1 日 至 2026年 6 月30日)
中間純利益又は中間純損失 ()	11,915	144,432
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,212	7,043
為替換算調整勘定	101,690	45,892
その他の包括利益合計	99,477	52,935
中間包括利益	87,561	91,496
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	87,561	91,496

(3) 【中間連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年 1 月 1 日 至 2026年 6 月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失()	22,373	129,767
減価償却費	8,215	8,923
のれん償却額	35,448	35,448
貸倒引当金の増減額(は減少)	19,408	3,218
受取利息	9,307	9,008
支払利息	6,633	5,853
固定資産売却益	240	522
為替差損益(は益)	1,410	1,259
投資事業組合運用損益(は益)	9,383	4,360
売上債権の増減額(は増加)	135,162	56,509
棚卸資産の増減額(は増加)	423	2,986
仕入債務の増減額(は減少)	20,563	56,138
前受金の増減額(は減少)	317	12,573
未払消費税等の増減額(は減少)	12,342	806
その他の資産の増減額(は増加)	13,442	1,603
その他の負債の増減額(は減少)	28,601	21,672
情報セキュリティ対策費	-	10,629
小計	179,935	113,012
利息の受取額	27,443	16,677
利息の支払額	6,633	6,075
情報セキュリティ対策費の支払額	-	6,736
法人税等の支払額	30,421	12,549
法人税等の還付額	-	8,056
営業活動によるキャッシュ・フロー	170,323	113,639
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	896,794	998,494
定期預金の払戻による収入	896,794	985,887
投資有価証券の取得による支出	27,130	32,864
有形固定資産の取得による支出	8,895	8,925
有形固定資産の売却による収入	240	2,010
無形固定資産の取得による支出	4,314	1,713
保険積立金の積立による支出	91	-
保険積立金の解約による収入	1,576	12
投資活動によるキャッシュ・フロー	38,615	54,087
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	103,286	103,286
株式の発行による収入	-	3,714
自己株式の取得による支出	-	2
財務活動によるキャッシュ・フロー	103,286	99,574
現金及び現金同等物に係る換算差額	20,314	9,683
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	8,107	257,618
現金及び現金同等物の期首残高	1,923,775	1,989,244
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,931,882	1,731,626

【注記事項】

（連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更）

当中間連結会計期間において、新たに設立した100%子会社である株式会社Kaizen AIX Consultingを連結の範囲に含めております。

（中間連結貸借対照表関係）

財務制限条項

当社の長期借入金（１年内返済予定の長期借入金含む）のうち273,320千円について財務制限条項が付されており、借入金残高及び当該条項の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年 6 月30日)
長期借入金	716,459千円	613,173千円

- （１）各四半期末日時点における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を直近の期末決算数値比75%以上に維持すること。
- （２）初回決算以降各年度の末日における連結の損益計算書上の営業利益が２期連続して損失とならないようにすること。

当座貸越及びコミットメントライン契約

当社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行３行と当座貸越契約及びコミットメントライン契約を締結しており、コミットメントライン契約のうち600,000千円について以下の財務制限条項が付されております。これらの契約に基づく当中間連結会計期間末の借入未実行残高及び当該条項の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当中間連結会計期間 (2026年 6 月30日)
当座貸越及びコミットメントラインの総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	700,000	700,000

コミットメントライン契約のうち500,000千円

- （１）各四半期末日時点における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を直近の期末決算数値比75%以上に維持すること。
- （２）初回決算以降各年度の末日における連結の損益計算書上の営業利益が２期連続して損失とならないようにすること。

コミットメントライン契約のうち100,000千円

- （１）各四半期末日時点における連結の貸借対照表上の純資産の部の金額を直近の期末決算数値比75%以上に維持すること。

(中間連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
給料及び手当	199,424千円	211,544千円
貸倒引当金繰入額	19,408	3,218

2 情報セキュリティ対策費

2026年3月に発生しました、連結子会社における個人情報漏洩の疑いに関する外部専門機関による調査、お問い合わせ窓口設置に係る費用等を情報セキュリティ対策費として計上しております。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
現金及び預金勘定	2,835,981千円	2,758,448千円
預入期間が3か月を超える定期預金	904,099	1,026,822
現金及び現金同等物	1,931,882	1,731,626

(株主資本等関係)

前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当中間連結会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間連結会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	中間連結損益計算書計上額(注)
	プロフェッショナル	クラウド	計		
売上高					
一時点で移転される財	502,351	-	502,351	-	502,351
一定の期間にわたり移転される財	1,428,389	215,996	1,644,385	-	1,644,385
顧客との契約から生じる収益	1,930,740	215,996	2,146,737	-	2,146,737
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	1,930,740	215,996	2,146,737	-	2,146,737
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,930,740	215,996	2,146,737	-	2,146,737
セグメント利益又は損失()	49,239	63,857	14,617	-	14,617

(注) セグメント利益又は損失は中間連結損益計算書の営業利益と一致しています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間連結会計期間(自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	中間連結損益計算書計上額(注)
	プロフェッショナル	クラウド	計		
売上高					
一時点で移転される財	272,610	-	272,610		272,610
一定の期間にわたり移転される財	1,500,750	270,023	1,770,773		1,770,773
顧客との契約から生じる収益	1,773,360	270,023	2,043,384		2,043,384
その他の収益	-	-	-		-
外部顧客への売上高	1,773,360	270,023	2,043,384	-	2,043,384
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	1,773,360	270,023	2,043,384	-	2,043,384
セグメント利益又は損失()	160,131	42,677	117,454	-	117,454

(注) セグメント利益又は損失は中間連結損益計算書の営業損失と一致しています。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

(1株当たり情報)

1株当たり中間純利益又は1株当たり中間純損失及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
(1) 1株当たり中間純利益又は中間純損失()	0円70銭	8円48銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益又は 親会社株主に帰属する中間純損失()(千円)	11,915	144,432
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する中間純利益 又は親会社株主に帰属する中間純損失()(千円)	11,915	144,432
普通株式の期中平均株式数(株)	16,969,187	17,024,292
(2) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益	0円69銭	—
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する中間純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	300,678	—
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 中間純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連 結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 当中間連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間連結財務諸表に対する期中レビュー報告書

2026年8月13日

株式会社Kaizen Platform

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 原山 精一
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 池田 洋平
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社Kaizen Platformの2026年1月1日から2026年12月31日までの連結会計年度の中間連結会計期間（2026年1月1日から2026年6月30日まで）に係る中間連結財務諸表、すなわち、中間連結貸借対照表、中間連結損益計算書、中間連結包括利益計算書、中間連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社Kaizen Platform及び連結子会社の2026年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間連結会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間連結財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認

められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。
また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 中間連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 中間連結財務諸表に対する結論表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、中間連結財務諸表の期中レビューに関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の期中レビュー報告書の原本は当社(半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは期中レビューの対象には含まれていません。